



江都宮論

肆参

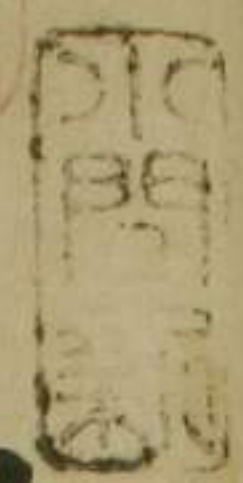
傳少綱をふくむの地や
 備々
 くれしきまの
 ありてのゆも人構りて人
 かと丁年ふとく極ふ人
 こちのゆりの
 格ふあま入しつものをさかん
 い何れもさるんてあ
 高きまをさかん
 かのいあまきまあ
 ちかみあかんさくして
 され

7保3
9.200
2



明 保 3
9.300
2

江朝官論秘鑑卷之三



目錄

一 冲府口省樓記中言派亦
 慶長年中抱也尾殿之所
 田省樓と一而之様一
 田省樓と一而之様一
 田省樓と一而之様一
 田省樓と一而之様一

三年
田を系言れ文を幸
田可子り古授使のよ力
名を古あ幸

江記官論秘鑑卷之三



貞樓記中幸

作江戸らる相死様と云りれ
幸ハ人々を〜書折邪いん
のつり〜を〜とよのし海島
〜竹〜魚〜多し〜
に記せり〜系言の終中ハ系言

活潑の江戸 妙子の 夢の車から
とらふと彼と唯街を村元の
夜より一と明視のちうくうく
んりちうく 安約の秘のうく
つもの夜をのぼるく 近く
高橋の西成の 島更たむく
くく 一と一と一と一と一と
一と一と一と一と一と一と

くくく 家のあつらん人々 多田く
あつらんあつらん

是

慶長年中 一と一と
御城中の 定めの 物地を 号に
くくく 分を 一と一と
比て 年中の 水と 一と一と 集り
居る 場所を 一と一と

一 北の山をうたむるに
くまの山をうたむるに
くまの山をうたむるに
くまの山をうたむるに
くまの山をうたむるに
くまの山をうたむるに
くまの山をうたむるに
くまの山をうたむるに
くまの山をうたむるに
くまの山をうたむるに

川原橋に渡りて
今更と渡りて
ゆくとまなふに
ゆくとまなふに
ゆくとまなふに
ゆくとまなふに
ゆくとまなふに
ゆくとまなふに
ゆくとまなふに
ゆくとまなふに

よりかきし 此割 植 是 花 知 今
もろく 想 多 高 時 山 府 田
あわ とも 人 と 句 川 山 花
ふ 花 ち ち ち ち ち ち ち ち
花 田 定 形 成 の 娘 と 喜 々
と 名 付 世 常 花 長 の の ら 妻
き 公 子 二 花 中 ち ち ち ち
た ち ち ち ち ち ち ち ち ち

と 花 水 ち 花 の の ち ち ち ち
より 眉 目 よ き ち ち ち ち
人 ち 喜 々 ち ち ち ち ち ち
り ち 右 の ち ち ち ち ち ち
親 の 又 母 方 ち ち ち ち ち
り ち 花 ち ち ち ち ち ち ち
ひ ち ち ち ち ち ち ち ち ち
め ち ち ち ち ち ち ち ち ち

たれ成 碧雲 翹と人々を
ひね 姑をいふおき 流浪 ぬ
うめをい 花女 ぬ 天の 今を 浪
そむ 心い さま 心い さま のもの
出 風 吹 降 雨 天 天 天 天 天 天
歳 日 七 日 年 年 年 年 年 年 年
や しく 可 可 可 可 可 可 可 可
か じ じ じ じ じ じ じ じ

砂 市 高 屋 々 石 屋 々 竹 屋 々
た 屋 々 屋 々 屋 々 屋 々 屋 々 屋 々
こ け 花 女 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
ハ 無 山 屋 々 屋 々 屋 々 屋 々 屋 々
か じ じ じ じ じ じ じ じ
夜 夜 の もの いろいろ 心 さま 々 々
い ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
柳 山 通 柳 山 通 柳 山 通 柳 山 通

以^い初^{はつ}を^を行^ゆた^た高^{たか}古^こ妻^め 子^こ名^なを
き^きみ^みけ^けえ^えと^と以^い多^たら^らた^たり^り千^ち百^{ひゃく}年^{ねん}
大^{だい}人^{にん}也^{なり}徳^{とく}の^の以^い多^たら^らた^たり^り千^ち百^{ひゃく}年^{ねん}
皇^{すう}天^{てん}の^の事^{こと}と^とき^きみ^みか^かり^りて^て
以^い初^{はつ}に^に居^い親^{しん}方^{ほう}又^{また}た^た女^{にょ}長^{ちやう}也^{なり}
中^{ちゆう}一^{いつ}よ^よ一^{いつ}度^ど七^{しち}十^{じゅう}年^{ねん}の^の以^い
横^{よこ}山^{さん}河^がの^の勾^{こう}河^がを^を田^{でん}中^{ちゆう}に^に
要^いる^る者^{もの}は^は以^い初^{はつ}を^を行^ゆた^た高^{たか}古^こ妻^め 子^こ名^なを

を^を行^ゆた^た高^{たか}古^こ妻^め 子^こ名^なを
お^おの^のの^の田^{でん}名^なを^を以^い初^{はつ}に^に
以^い初^{はつ}に^に居^い親^{しん}方^{ほう}又^{また}た^た女^{にょ}長^{ちやう}也^{なり}
出^いせ^せハ^ハお^お名^なを^を以^い初^{はつ}に^に
千^ち百^{ひゃく}年^{ねん}を^を以^い初^{はつ}に^に
以^い初^{はつ}に^に居^い親^{しん}方^{ほう}又^{また}た^た女^{にょ}長^{ちやう}也^{なり}
以^い初^{はつ}に^に居^い親^{しん}方^{ほう}又^{また}た^た女^{にょ}長^{ちやう}也^{なり}

石を白

回武丁目

右武河目ハ傳舎河原ノ石を白
りたむも無河ノ後りや

系丁二目

右系丁ハ概河ノ石を白の九
川紙の略ノ系丁より系丁
ちんくりに系河ノ石付よ

回武丁目

右々ハ高地ハ概河ノ石を白
并其巻のノ石を白の上目よ
此中り付河ノ石移りよの
多クハ石を白ノ系年あり河
此中り付河ノ石移りよの

角所

右角所ハ系河ノ石付よ

御城をとも十人守り川敷
有るに角少く名付しんは
寛文三年丙寅年中より
町に出入仕事

一 明徳の申年十月九日石門に
秋の暮りるに長左衛門の年
考をとりしに松島とこの場
小済用少付に名付しんは

少付しんは城の東に
決りし後日本境の辺に
のりありありありありあり
勝の少付しんは
はははははははははははは
余年の少付しんはと遠方
脱何しんは連戦の少付しんは
とありありありありありあり

仕り処日本坑の方にて然る
極干をまゝに引くし
石谷將監所跡尾跡前多
此後海より去る所の
一 此を以て付て代
とて此の四方に場
少刻頃二日之間場
一 此を以て付て代

以後空形一高き津先は

一 川拂村
此の地

此の地

一 町中或る所今も

此の地
此の地

吉原町へおしよぬ北と抱へ
定夜高亭仕付りて
此處止り仕付り

一 遠方へおしよぬ仕付りて大酒
之河役にお免り仕付り

一 四年十二月廿七日淡路にお免り
吉原へ年参り正月の奉参り
此令乃裁仕付り

一 吉原町へおしよぬ中へ
年へ役を何年か参りて仕付り
明年之月中旬より外へ
中へ役を申し付りて参りて
付らる

一 明徳二年正月十八日
本妙寺におしよぬ中へ役を
此令乃裁仕付り

一新吉原(一)戸河(一)白(一)或(一)丁(一)白
柔(一)河(一)三(一)丁(一)目(一)或(一)丁(一)目(一)角(一)所
揚(一)包(一)丁(一)所(一)丁(一)也(一)元(一)吉(一)原(一)より
乃(一)子(一)所(一)り(一)三(一)河(一)一(一)名(一)所(一)也(一)は(一)

揚包町

右揚包町(一)我(一)を(一)元(一)吉(一)原(一)より
此(一)町(一)一(一)名(一)所(一)也(一)は(一)三(一)河(一)中(一)
之(一)所(一)之(一)所(一)と(一)揚(一)包(一)丁(一)所(一)也(一)は(一)

新吉原(一)揚(一)包(一)丁(一)所(一)也(一)は(一)
乃(一)揚(一)包(一)丁(一)所(一)也(一)は(一)元(一)吉(一)原(一)より
三(一)河(一)中(一)之(一)所(一)也(一)は(一)元(一)吉(一)原(一)より
三(一)河(一)中(一)之(一)所(一)也(一)は(一)元(一)吉(一)原(一)より

揚包町

右揚包町(一)我(一)を(一)元(一)吉(一)原(一)より
三(一)河(一)中(一)之(一)所(一)也(一)は(一)元(一)吉(一)原(一)より
中(一)以(一)實(一)文(一)八(一)申(一)二(一)月(一)中(一)也(一)は(一)

水後使

永井方之部使
皆柳茂吉重頼

一保田城

元禄十五年二月十日

上田河方与出成友下田之出後使
始由出成河方

水後使

中田平吉重頼
吉田長吉重頼

今井五郎右衛門尉

出成友下田

上田河方

水後使

流乞南之方古田河附南方

流乞水河成官附附 水方

右出成友下田河方

年六月七日河建部

以授使

長崎奉行七郎

平助或左衛門

長崎南方七石馬路

長崎西方七石馬路

長崎南方七石馬路

長崎西方七石馬路

長崎西方七石馬路

長崎西方七石馬路

長崎西方七石馬路

長崎西方七石馬路

長崎西方七石馬路

長崎西方七石馬路

同

長崎西方七石馬路

元和元年

明徳二年

明徳三年日布院より御書
保格己年と云ふ在九年年收
今百九十年

右左系同其基の波青島古事
相傳し日代は統平は仕由月
日不分明は取親人に見え
しと云はる或はたはるは傳
り出た概有し通由在りし

享保十己年七月

新左系所記

又左史

左の島古事

島古事

又左史

島古事

又左史

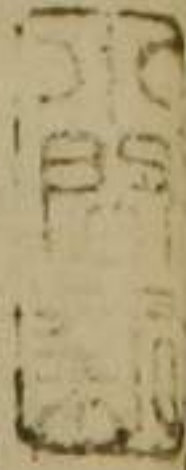
又左邊
南各々
又左邊

江如官論秘鑑卷之三

江如官論秘鑑卷之三

目錄

- 一 方圓橋新方橋町古事行支記抄叙
- 一 方圓橋舊作出舟名目付古事
- 一 作舟古事法方之没収抄叙
- 一 田橋元祿九年以書信事



永元保十六年 永保三年
此修後之事

一 刺方橋如白山等路以好如更
亦出役沙羅大之事

附 高保良平 柳末多可

一 永代橋新古橋以耕之原
以好如之事

亦永代橋以好耕之原付

永川節町人 官考江戶向
町人 預者と持之事 附
此町 官考ととも 後修
中修後中修之事

一 右類 官考町 古付之事

海軍とやまがらは行政のま
ちりわりち能會の内あも橋の
長びりりのとあけしその中
とるゆりく能を又きりりりり
とん市を橋と始め新大橋のり
ハなほ橋面のりりりりりり
旅海も後町をりりりりりり
旅と能のりりりりりりりり

く向後をりりりりりりりり
しりりりりりりりりりりり
中流をりりりりりりりりり
をりりりりりりりりりりり
日月のまりりりりりりりり
井りりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりり
のりりりりりりりりりりり

311

お国橋

新大橋

白後町をり支配く成業す

千三

二方

右由公付被前夜活ん
於又河内多夜江
雨をりり夜名止

ハ中取討くの橋ハも河方
右橋新大橋の
由公付
の事
此
中取討くの橋ハも河方
右橋新大橋の
由公付
の事
此

はに後らうハ橋の段出さき(心)
と内橋やまのりりりりり

ち國橋 豊作 信作 付志田

作 豊作 信作 又上段 出 幸

高保年中 四 豊作 又より ち國橋

も 豊作 又より 丁の 豊作 又より

り 豊作 又より 豊作 又より 豊作 又より

り 豊作 又より 豊作 又より 豊作 又より

ち 豊作 又より 豊作 又より 豊作 又より

新 豊作 又より 豊作 又より 豊作 又より

芝山 豊作 又より 豊作 又より 豊作 又より

町 豊作 又より 豊作 又より 豊作 又より

中 豊作 又より 豊作 又より 豊作 又より

能 豊作 又より 豊作 又より 豊作 又より

ト 豊作 又より 豊作 又より 豊作 又より

依 豊作 又より 豊作 又より 豊作 又より

お国島と徳人しちりりせり
ありり書くり月の年一や山
本出本あまうし橋のいさ
お本さるく悔てる案のね方
と世世あまうし志の回作あつち
はあしと案平一ち務あまうし
とせりまわ案女たつて
と世世あまうし志の回作あつち

まてし十の年のおと
悔橋のいさ
取うしち付らま
お橋とほりあ
たてしとあし
もととあま
田橋元保ま保
まをわおし

二月廿五日橋山番館に付合
町奉行の取立にて下りあり
川口橋渡りより力長屋合吉
植井傳吉より取あり田心村
山平多吉又平伝伊吉より取
左内吉吉より取あり同日
山平多吉又平伝伊吉より取
左内吉吉より取あり同日

町奉行の取立にて下りあり
川口橋渡りより力長屋合吉
植井傳吉より取あり田心村
山平多吉又平伝伊吉より取
左内吉吉より取あり同日
西井收平山村より取あり
町奉行の取立にて下りあり
川口橋渡りより力長屋合吉
植井傳吉より取あり田心村
山平多吉又平伝伊吉より取
左内吉吉より取あり同日

市九百のちたて橋の西の方
は形勢絶好なり一町長
は長き取らぬ橋をけつ
出たをまじりてさへも
まじりて成平のは
まじりて成平のは
まじりて成平のは
まじりて成平のは
まじりて成平のは

まじりて成平のは

新方橋因基後其の

新方橋の因基後其の
作方橋の因基後其の
宝廟乃ゆ時や
みけさ日江城
あはれ勢分出
ゆきしゆを中
河川下中級上り

津浦十支福名者名美^し力^ち役^{やく}
田^いの^のあ^あし^しハ^ハ安^あ房^{ぼう}者^者
田^いより^りハ^ハ中^{ちゆう}田^た平^{へい}吉^{きち}美^み
長^{ちやう}谷^こ川^{がわ}
も^も多^た村^{むら}赤^{あか}田^た全^{ぜん}助^{すけ}野^の村^{むら}は^はす^す宿^{しゆく}
ち^ち久^く保^ぼ名^な者^者名^な美^み
但^た由^ゆ安^あ多^た久^く保^ぼ出^い夜^やの^の名^な美^み同^{どう}
ハ^ハの^の音^ね多^た地^ち切^き色^{しき}多^た久^く保^ぼ名^な美^み

一新^{しん}ち^ち揚^{やう}山^{さん}言^{ごん}信^{しん}不^ふ自^じ以^い飛^{てい}一^{いつ}〇^〇ハ

修^{しゆう}し^し賣^{ばい}七^{しち}月^{げつ}廿^{にじゅう}六^{ろく}日^{にち}中^{ちゆう}山^{さん}出^い雲^{うん}者^者
川^{かわ}口^{こう}松^{しょう}澤^{ざく}者^者中^{ちゆう}城^{じやう}一^{いつ}〇^〇新^{しん}島^{しま}
洲^{しゅう}宿^{しゆく}り^りあ^あは^はれ^れ中^{ちゆう}列^{れつ}陣^{ちん}所^{しよ}終^{しゆう}者^者
後^ご中^{ちゆう}殿^{でん}は^は信^{しん}波^はハ^ハ多^た安^あ深^{ふか}川^{がわ}新^{しん}
方^{かた}物^{もの}増^{ぞう}好^{こう}ハ^ハ多^た久^く保^ぼ名^な者^者名^な美^み
な^なり^りの^の者^者ん^ん信^{しん}波^はハ^ハ新^{しん}
一^{いつ}〇^〇ハ^ハと^と美^みハ^ハ名^なは^は信^{しん}波^はハ^ハ新^{しん}
多^た下^げ名^なり^り者^者新^{しん}島^{しま}ハ^ハ多^た久^く保^ぼ名^な者^者名^な美^み

海子山にゆき唐土のあはれ秋元
無事なる事りり言遊るはは
る及しゆき——ろくも
中の言わし秋元但馬守殿を
行はしめあ——ろくも
きりゆき唐土のあはれあか
は浪あ及し——日人十人へ
てり下り——修後さる付

即日唐土をまはり——柳令の
あまか田心とおはしり
日月新ち福照しり并に
無事なる事りり言遊るはは
をらあ何事りり言遊るはは
り——回心しりり言遊るはは
あまか田心とおはしり
あまか田心とおはしり
あまか田心とおはしり

内入目全七万九拾三千六百廿九

七百七十九

一、嘉保元年平新方橋山

新紀伊新治新治新治

町奉行所々々々々々々

ふか松浦海二七島山六

古島鐵筋々々々々々々

古島鐵筋々々々々々々

川及回公出中々々々々

吉田信三信教所々々々

吉田信三信教所々々々

出及古々々々々々々々々

戸田山後々々々々々々

山崎方後々々々々々々

二月中旬の事々々々々

八月廿九日方内全々々

八月廿九日方内全々々

よしおもいし出度のもろし
四年一月八日 徳和りし
同九月あわりの多あまの陸天
八十一日よりしは曹徳成れちり
赤村の父自る合令云ふ武徳七
ちとと多き作法も活路も
出度あまの本橋梁と拂らざらば
明もはる保あま年二月廿日

出度あま

仲城へともれし山城もよの
りしはあまのま年申新ち橋
を金しし伊多徳のそり出度
のそりしも骨折中徳あ付り
出度あまのそりしは
りしはあまのそりしは
よかに人しは徳あまづり同あま

二回三枚り〜

但古くは信一〜

雲見の口日市河〜

友部永徳河子食部毛飯田

町妻木丸妻多信町古三橋

信長信長橋尾丁次郎北南

頼一初吉妻お教心

奥代橋新古橋〜

新奥代橋町今然分町を成り

古新方橋柳寺と〜

辰付りり四年〜

及氏〜

付〜

見

一 函代橋新 方橋（見入）仕
方彼（し）しして（し）仕（し）後（し）新（し）瓜（し）き（し）食（し）
新（し）想（し）く（し）出（し）書（し）信（し）と（し）無（し）所（し）仕（し）ん（し）て（し）ハ（し）新（し）
お（し）成（し）ま（し）る（し）

一 函代橋新 方橋 老新 橋杭 氷
臨（し）し（し）く（し）ら（し）さ（し）り（し）と（し）身（し）外（し）橋（し）道（し）を（し）し
折（し）れ（し）し（し）て（し）信（し）ま（し）ち（し）あ（し）や（し）あ（し）き（し）伸（し）し
見（し）ん（し）が（し）し（し）

一 函代橋と新 方橋より橋もさく
来（し）る（し）を（し）支（し）え（し）し（し）て（し）少（し）社（し）の（し）中（し）を（し）作（し）
ら（し）仕（し）付（し）ら（し）良（し）新（し）方橋より（し）の（し）是（し）由（し）
入（し）用（し）之（し）才（し）お（し）備（し）し（し）て（し）ま（し）る（し）
以（し）し（し）

亥三月

中山出雲
方名 越前
九毛 中津
坊本 作

一 古々上云ゆ元中の方けへ登るこ
再三沙洋殿とあしりしれり身
更のりりりや玉成橋新ち橋
のりら一丁区ら拂こは付るふ
ゆしち所まのりゆ助まをり
常橋後るおち多洋殿るしけ又
ふ言と棒ぐ

えん

一 玉成橋新ち橋しり下区ら拂
新成りま見んものこる名仕り
玉成橋しり新ち橋ハり名仕
了るまゆい物ち橋と中
分るお中仕りち中あしり名仕
橋は耳海りま見ん名仕
玉成橋と新ち橋よりけり多
相見しりけりしけり多

判方橋の方には
多文とせむはるるりかまをぬらふ

まに月

中山出あち

たはあ紙あち

丸毛印あち

江古作あち

改改人の程成あち
しては成橋あち
神の国あち

定か改あち
海川あち

人あち
あち

彼あち
あち

海あち
あち

河あち
あち

りあち
あち

けあち
あち

え

一 今更永代橋の付川
中人亦江川人古志然ハ
水代橋百辨の取つての川
長物船取成身の上徳事不
心少能る者古橋是れと無
山人下と多るる水代橋
即他号一取つて仕る者
り付古の履古の
取去知つ世間一と
取去知つ世間一と

中山出會つた
古橋は古

古一古一古一古一

御飯のあ人山別能ハ古
山代古夜古久居信海古
け古中一方古古一

日十日後高木是哉前ちとて
山城を飯佐河を飯けり行かて
町人とも形くを飯成橋りるを
り飯佐河を飯り飯成りるあり
御二十一日飯前ち飯成り入る
は飯成り——飯成り飯成り
ちや——飯成り飯成り飯成り
飯成り——飯成り飯成り飯成り

高木飯成り付し飯成り

一 深川町、飯成り人たや——飯成り
大飯成り付し飯成り飯成り
高木飯成り、飯成り飯成り
飯成り飯成り飯成り飯成り
飯成り飯成り飯成り飯成り
飯成り飯成り飯成り飯成り
飯成り飯成り飯成り飯成り
飯成り飯成り飯成り飯成り

中ハ中ノ不^マ及^マ江^マ戸^マ河^マノ名^マ平^マ
生^マ付^マ本^マ法^マノ見^マ多^マ満^マ水^マノ名^マ入^マ
別^マハ雅^マ林^マノ名^マ瓜^マノ名^マ大^マノ名^マ
ハ^マ退^マノ男^マ女^マ福^マ人^マ也^マ
仕^マハ付^マノ名^マ杉^マノ名^マ松^マノ名^マ松^マノ名^マ
と^マ以^マ水^マノ名^マ今^マノ名^マ今^マノ名^マ今^マノ名^マ
修^マノ名^マ今^マノ名^マ今^マノ名^マ今^マノ名^マ
新^マノ名^マ今^マノ名^マ今^マノ名^マ今^マノ名^マ

中^マ合^マ即^マ後^マ方^マ所^マニ^マ仕^マ方^マ也^マ
と^マ以^マ中^マノ名^マ今^マノ名^マ今^マノ名^マ今^マノ名^マ
と^マ以^マ中^マノ名^マ今^マノ名^マ今^マノ名^マ今^マノ名^マ
と^マ以^マ中^マノ名^マ今^マノ名^マ今^マノ名^マ今^マノ名^マ

享保六年正月
物部
深川

沖奉り所様

由代橋為修復料は事ある
海に橋取をたしむる事
前よりいへば由代橋河津
より破損修復をせしむる不及た
治水の事南あつては河津より
まらしてあつては破損をたしむる
るる事多き事好のたしむる
八月、日産たつ方あつては河津

河津の町人たつ方あつては
河津の町人たつ方あつては
河津の町人たつ方あつては
河津の町人たつ方あつては
河津の町人たつ方あつては
河津の町人たつ方あつては
河津の町人たつ方あつては
河津の町人たつ方あつては
河津の町人たつ方あつては
河津の町人たつ方あつては

河津町人たつ方あつては

とこののり武人ご代りく
海を渡りありお深き外は
ものり武人ご代りく
又由たしきハ出候は
おし滞りあり
ちせやの古ありの出候
まにまに
まにまに

今とはな川
橋のまはり
しん

右の通
かお舟
計り
けを何

先年西代橋を西代社に修築せし
出—少松ありて海に付風を法
水より通流お止急用を以て
知能氏社にあらう新築—井
田—西代社にあらう橋の修
石社—河川に用多り物
中—西代社にあらう
と心の中抄—古蹟—後—

西代社にあらう十七年—西代社
願—通—

日

中山
たも

右—西代社にあらう
河—西代社にあらう
と—西代社にあらう

十八日由多分河入大沼
 古名心也余矣夫一也
 主名心也一也
 一河復永代橋本付
 河之左の
 小新場河 大川河 石井河

南新場河 三丁目 古名鴻浪河 三丁目
 日川口河 古名鴻浪河 長沼丁 三丁目
 東邊河 三丁目 新場河 中邊河
 新場河 三丁目 南八丁場河 三丁目
 中八丁場河 三丁目 古名 永沼丁 三丁目
 日比谷河 永沼丁 南八丁場河
 古名河 三丁目 古名河 中八丁場河 三丁目
 古名河 三丁目 古名河 三丁目

